

日本ボンド磁石工業協会  
会長 原田 英樹



地球温暖化のせいか、世界的な異常気象の今年は、何かと話題の多い夏でした。関東から北では冷夏のため、今年はどうやら東北などのおいしいお米は期待できないようです。南極やスイスアルプスの氷の溶けるのも、大変気になります。一方我々の関係する日本の電子、電気業界は、日本の特色ある技術を生かした製品作りに目覚め、一昨年ころの自信喪失はなくなり、活発に活動を始めております。皆様もこれに答えるべく、お元気にご活躍のことと存じます。

地球温暖化対策の一つの柱である、自動車の電磁駆動、制御 (Drive by Wire) の具体的な内容が次第に明確になってきております。従来の鉄、アルミニウムなどの鋳物や、油圧系から、磁石と電磁鋼板、センサーに代わるのです。このマーケットは全く新しく必要になります。自動車の何%が何時Drive by Wireになるかが、重要な関心事になります。磁石業界のコスト、性能および供給力の対応がキーとなるでしょう。世界で自動車は現在5200万台生産されております。この約10%が代わるだけで、現在のNd磁石の生産量とほぼ同じ量のNd磁石が必要となります。焼結Ndや希土類ボンド磁石のコスト低減は活発に進むでしょう。希土類ボンド磁石の耐熱特性も改善が進むと考えます。これにより、自動車用補機 (ワイパーやブロー) 用モータの軽量化も促進されると思います。

一方フェライトの方もただ静観していないと考えます。焼結フェライトは高い信頼性を確保しながら、生産技術の改革で、希土類磁石との Cost Performance を 1/10程度に保つ努力を続けたいと思います。ボンド磁石は形状の高い自由度と材質の均質性を生かし、確実に市場を確保したいと思います。

結論として、中国、日本両者とも、それぞれの特色を生かした製品で、活発に生産を拡大して行くように思えます。自動車用を中心として、磁石の世紀が展開して行くのです。

協会は以上の技術、市場動向をよく理解し、適切なテーマで、技術例会やシンポジウムを運営してまいります。世界の生産統計の作成も、以上の観点を十分考慮し、作成してまいります。本年の統計より、日本メーカーの海外生産分も表示するように致しました。

今年はSARS問題のため、中国の方々を多数お呼びすることが出来ません。従い欧米を中心として、国際展開する予定です。

協会の事務運営は多田専務理事お一人で、大活躍いただいております。休日も出勤され、また夏休みもついにお取りいただかずに、過ぎようとしております。厚く感謝申し上げますと共に、協会の健全運営のため、会員各位の更なるご協力を是非お願い申し上げます。